

# 令和3年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」 全国サミット発表資料



香川県立高松北高等学校



# グローバル化に対応した地域デザインを創造する地域創生リーダーの育成

## 6年間を見通した探究的な学びの過程

グローバルな視点からの探究  
 ・留学生との交流  
 ・海外フィールドワーク 等  
 海外交流アドバイザー

中学校時  
 ・地域学習  
 ・海外研修旅行  
 ・語学研修

1年次  
 課題の設定  
 情報収集・整理  
 フィールドワーク  
 実践・対話・探究  
 成果発表

2年次  
 課題の再設定  
 フィールドワーク  
 地域創造案の策定  
 成果発表

3年次  
 地域創造案の改訂  
 地域デザイン策定  
 発表・提言・実践

地域に関する視点からの探究  
 ・地域でのフィールドワーク  
 地域協働学習実施指導員

グローバルな視点を持ちながら、多文化共生の地域社会を創造する人物

身に付けるべき  
 資質・能力

体感力	対話力
探究力	提言力

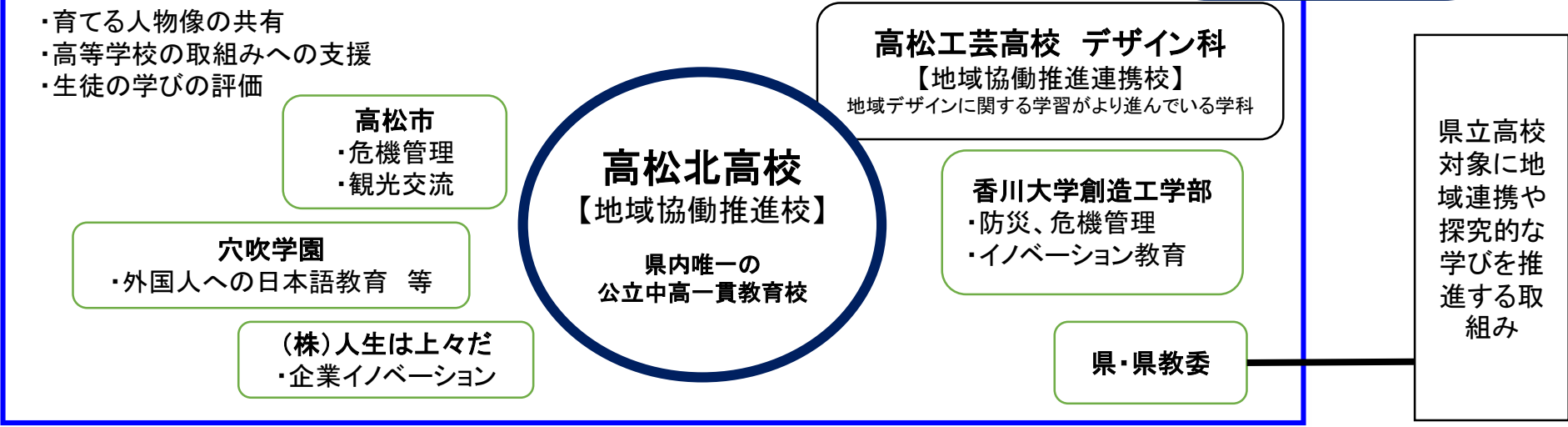
## 探究課題の設定

学校や取り巻く地域、県の状況



## 課題解決のための連携組織

### 学校と地域が協働するためのコンソーシアム



# ＜事業の概要＞

急速にグローバル化が進む香川県にあって、地域の課題の解消に向けた地域デザインの構想力・提言力を育み、生徒自らが主体的に地域と連携しながら地域活性化実現の原動力となるとともに、グローバルな視野を持ち多文化が共生する新時代の地域社会を創造・牽引する地域創生リーダーへと成長することを目指す。

○探究テーマの設定は、①グローバル②芸術③スポーツ④防災・環境⑤看護・医療・福祉の5分野から選択するものとする。

○個別の研究課題の設定は、生徒個人やグループの自主性に任せることとし、「総合的な探究の時間」や「社会と情報」等の中で、課題設定からフィールドワーク等を通じた情報収集活動、対話を通じた探究活動、さらには提言・実践に至るまでの一連の地域創生デザインの創造過程を研究開発する。

人口減少や高齢化、急速な  
グローバル化など時代の急変に  
伴う諸課題を発見

新たな地域創生の方策に  
ついて自ら構想・探究・創造

諸課題解決のため主体的に行動できる地域創生リーダーを育成

体感力

対話力

探究力

提言力

国内外でのフィールドワーク・外国人との交流

## 取り組み例

「グローバル」への対応	「ローカル」への対応	「プレゼン力向上」への対応
<ul style="list-style-type: none"><li>・海外研修（1年目のみ実施）</li><li>・海外の外国人とのオンライン交流</li><li>・県内の外国人との交流研修</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・現地研修（県内・県外）</li><li>・分野別講演会</li><li>・フィールドワーク（インタビュー及びアンケート調査等）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・プレゼンテーション講座</li><li>・校内発表会の開催</li><li>・県内外の発表会への参加</li></ul>



# ＜カリキュラム開発に係る成果＞

- ＜校内体制＞全ての教科・科目でこの研究開発に関連づけた授業に取り組んだ結果、学校全体で取り組む体制が充実し、教科横断的な取組みとなった。
- ＜教育課程＞「総合的な探究の時間」と「社会と情報」の年間指導計画を工夫・連携することにより情報収集からまとめまで一連の探究活動を充実・深化させることが可能になった。
- ＜地域協働＞県内の関係機関との連携が大幅に進み、年間スケジュールに現地研修計画が位置付けられたり、4つの機関と協定書を締結し、連携の永続化を図れるようになった。
- ＜グローバル対応＞県内の関係機関に在籍する多様な外国人との交流会や米国・台湾等の学生とのオンライン交流、外国語の授業におけるコミュニケーション能力の育成等により、幅広い国際感覚と高度なコミュニケーション能力を身に付けさせることが可能となった。
- 2年次以降、コース横断型のグループ編成が可能となり、探究活動の多角化と探究内容の深化が図れるようになった。
- 現地研修や地域の専門家による校内研修によって体感力・対話力・探究力の育成が可能であることを証明した。

# ＜カリキュラム開発に係る課題＞

- 探究班ごとのレベルの差が大きく、探究活動が行き詰った班もある。一層のきめ細かい指導とともに、一人ひとりのキャリア形成と関連付けた指導が必要である。
- 分野別講演会や関係機関での現地研修も定着し、連携する機関数も大幅に増加したが、一時的な指導・連携に留まることがないように、引き続きこの体制を維持していかねばならない。
- 学年をまたぐ中長期的な探究テーマの設定や、探究活動の推進も不可欠であると考え、自由なテーマ設定を基本としつつも学年を越えた探究活動に取り組むことが求められる。
- 情報収集や整理・分析活動に不可欠なタブレット端末や無線LAN設備等の整備も進んだが、これらの機器を有効に活用した情報収集活動や情報発信等の取組みにも工夫をしていかねばならない。
- 各教科・科目での取組みの充実や起業家教育、プレゼン力育成なども一層推進する必要がある。

## 海外交流アドバイザー及び地域協働学習支援員

分類	所属・職	氏名
海外交流アドバイザー	名鉄観光サービス(株)・高松支店長	喜多野裕介
海外交流アドバイザー	(株)JTB高松支店・営業第一課長	大本 耕造
海外交流アドバイザー	(株)JTB高松支店・営業第一課長代理	阿吹 隆広
海外交流アドバイザー	(株)日本旅行高松支店・営業課長	曾我部友仁
海外交流アドバイザー	(株)アイエスエイ関西支社・法人営業部担当	南出 准
地域協働学習支援員	(株)人生は上々だ・代表	村上モリロー
地域協働学習支援員	(株)人生は上々だ・アカウントエグゼクティブ	吉川 賢司



# コンソーシアム

所属・職	氏名
香川県教育委員会・教育長	工代 祐司
香川県立高松北高等学校・校長	國木 健司
香川県立高松工芸高等学校(連携校)・校長	塩崎 潤
香川大学創造工学部・学部長	末永 慶寛
香川大学国際研究支援センター・副センター長	尾上 能久
高松市総務局危機管理課・課長	滑田 健二
高松市創造都市推進局 文化・観光・スポーツ部観光交流課・課長	吉峰 秀樹
穴吹学園 穴吹ビジネスカレッジ・校長	篠原 達司
(株)人生は上々だ・代表	村上 モリロー

# ＜コーディネーター及びコンソーシアム等に係る成果・課題＞

## 【海外交流アドバイザーによる成果】

○海外研修に代わる国内研修先の指導や現地との調整にあたった。また、海外の学生とのオンライン交流の手配から調整など、新たな取組みに全面的に協力した。

## 【地域協働学習支援員による成果】

○適宜、授業に参加し、テーマ設定や探究活動の方法、フィールドワーク先やその方法など、協働学習の支援を行った。

## 【コンソーシアムによる成果】

○運営協議会において、全体計画の策定や進捗管理、計画の変更・修正を行うとともに、プレゼン力育成の取組みや評価方法の工夫など新たな取組みも進めた。また、各探究分野ごとに分科会を設け、担当教員や生徒に対して講評や指導・助言を行った。

## 【課題】

○本事業終了後もさらに探究活動を充実したものにできるよう、継続的かつ安定的な連携体制を確立する必要がある。